

まな かん だい だん 学んで、感じて！第2弾！

いま まな みらい であ
現在を学ぼう、未来と出会う！

5月のおおさか フィールドワークに続き、6月26日(日)「公益財団法人反差別・人権研究所みえ」調査・研究員の本江優子さんをお招きし、人権プラザ天白主催の社会同和教育講座を、天白町第2集会所で開催いたしました。「現在を学ぼう、未来と出会う～これからを担う子どもたちへ思うこと～」と題して、人権問題に関する県民意識調査の結果から見てきたことを中心に、未来を背負う子どもたちが、安心して生活をおくれる社会にするために大切なことを、客観的かつ熱く語っていただき、本年度2回目の学びの場を、有意義に体験することができました。

あんしん せいかつ おく
安心して生活を送ることができるためにも、「学び」を続けていくことが、私たち大人
の責務ではないでしょうか。



人権問題に関する県民意識調査では、旧同和地区に関する住居問題や結婚に関する差別意識は、今なお4割を超える割合にあるという憤りを感じる結果が出ています。しかし、同時に職場や住民対象の講座で同和問題についての学習経験がある人ほど、これらの差別意識が低くなっているという傾向が浮き彫りにされました。結婚問題に関しては、最近5年間に県や市町が主催する人権に関する講演会や研修会を「一度も参加していない」人は、問題にしない意識が6割余り、「3回以上参加した」人は、問題にしない意識が9割弱という結果から、研修会等で学習を重ねることにより4人に1人の割合で意識が変わったこととなります。このような結果からも、研修会等で繰り返し参加し学ぶことで、正しい知識や差別の実態を知ることができ、間違った情報や偏見に惑わされることなく、自分の問題として捉えることができるようになります。その結果、差別を許さない、反差別の行動がとれるようになると思います。

子どもは、『親の鏡』と言われるように、大人(親)の生き方そのものが、子どもの生き方を大きく左右すると思います。次世代を担う子どもたち一人ひとりが、安全で